演題 2

ストーマ便処理時の消臭対策
～ほうじ茶ゲルの使用と手技の統一～

発　表　者　　宮下　尚子（和歌山県　公立那賀病院）
共同研究者　　中塚　美千子、西川　千佳

ストーマ便処理時の消臭対策
～ほうじ茶ゲル使用と手技の統一～

公立那賀病院　○宮下尚子、西川千佳、中塚美千子

はじめに

ストーマ造設患者には、においに対する不安がある

ストーマの便処理時のにおいが軽減できれば、療養環境の改善、QOLの向上に繋がるのではないか

ストーマ便処理時の消臭対策　ほうじ茶ゲルと手技の統一

ストーマ造設患者には、臭いに対する不安があると言われています。臭いが発生するのは、装具交換時、便処理時、装具が漏れた時などです。便処理は日に数回行われ、術後や終末期では床上で行うことを余儀なくされます。ストーマ便処理時の臭いが軽減できれば、療養環境の改善やQOLの向上につながるのではないかと考えました。

ストーマの消臭対策

- 消臭効果のあるものを食べる、装具に入れる
- 装具に消臭カバーを装着する
- 便処理方法の工夫
  茶葉、コーヒー豆かすなどを使用する

入院中でも容易に実践可能な方法は・・・
ストーマ装具に消臭剤を入れる
便処理方法を工夫する

ストーマに対する消臭対策はこれまでに数々報告されています。その中で入院中に容易に実践可能な方法は、ストーマ装具内に消臭剤を入れること、便処理方法を工夫することでした。

ストーマ装具に消臭効果のあるものを入れる

安価で入手しやすく、消臭効果のあるもの
→ほうじ茶（院内常備あり）

ほうじ茶ゲルを作成しよう

ストーマ装具に入れるものとして、便の臭いが軽減でき、安価で入手しやすいものを考えた結果、院内に常備しているほうじ茶を使用することにしました。装具にいれやすい形態を検討し、ゲル状にすることにしました。

プラス　便処理方法の工夫

においが拡散しない便処理方法の統一

↓

においの発生源である便を速やかに密封する

便処理方法の工夫としては、臭いが拡散しない方法を考え、臭いの発生源である便を速やかに密封する処理方法を統一しました。

研究目的

1.ほうじ茶ゲルの使用
2.排泄物の空気中への暴露時間を短縮させる便処理方法の統一

2つの方法を併用しストーマ便処理時のにおいを軽減できるか検討する

今回の研究では、ほうじ茶ゲルの使用と排泄物の空気中への暴露時間を短縮させる便処理方法の統一という２つの方法を併用し、ストーマ便処理時の臭いが軽減できるか検討しました。

研究方法

＜研究対象＞
- 消化管ストーマ造設患者のベッド上で便処理する際に発生する臭気
- 患者の年齢・性別・ストーマ造設部位は問わない
- 食事形態は3分粥以上

＜研究期間＞
- H26.10月～12月

研究方法です。対象は消化管ストーマ造設患者のベッド上で便処理する際に発生する臭気です。患者の年齢、性別、ストーマ造設部位は問いません。食事形態は３分粥以上としました。期間はH26.10月～12月の３か月間です。

研究方法

1.便処理前に、臭気評価者数名がベッドサイドの臭気評価をし、チェック表に記入する。
2.臭気評価者は部屋の外で待機する。
3.便処理終了後、臭気評価者がカーテン内に入り、ベッドサイドの臭気評価をし、チェック表に記入する。

6段階臭気強度表示法

便処理前に、臭気評価者数名がベッドサイドの臭気評価をし、チェック表に記入します。

臭気評価者は部屋の外で待機します。便処理終了後、臭気評価者が、ベッドサイドの臭気評価をし、チェック表に記入します。臭気評価は６段階臭気強度表示法を用いて評価しました。６段階臭気強度表示法はスライドをご参照ください。

研究方法

- 臭気評価、便処理は、カーテンを閉め切った状態で行う。
- 臭気評価者は、対照群か実験群か知らない者とする。
- 大部屋の場合は、便処理前から臭気評価終了までに、同室内で排泄行為があった場合はデータから省く。
- 対照群と実験群は同一患者とする。
- 便処理を行う看護師は臭気評価を行わない。
- 実験群のほうじ茶ゲル注入は臭気評価終了後とする。

臭気評価、便処理はカーテンを閉め切った状態で行います。臭気評価者は、対照群か実験群かを知らない者としました。大部屋で実施の場合は、便処理前から臭気評価修了までに、同室内で排泄行為があった場合はデータから省きました。対照群と実験群は同一患者としました。便処理を行う看護師は臭気評価を行いません。実験群のほうじ茶ゲル注入のタイミングは臭気評価終了後としました。

研究方法
ほうじ茶ゲル作成

- 1日1回ほうじ茶ゲルを作成する
- 院内給茶機のほうじ茶150mlにとろみ食用テクスチャー剤（ソフティア®）を6g混ぜゲル状にする
- ほうじ茶ゲルはドレッシング容器に入れる（ワンプッシュで5g注入できるもの）

１日１回ほうじ茶ゲルを作成します。

院内給茶機のほうじ茶150mlにとろみ食用テクスチャー剤６ｇを混ぜゲル状にします。

ワンプッシュで５ｇ注入できる容器に入れ注入します。

研究方法：対照群
（ナイロン袋1枚使用、ほうじ茶ゲルなし）

対照群です。便処理方法は従来の方法で行います。ナイロン袋を１枚準備し、そこに便を捨てます。排出口をティッシュできれいにふきとります。

研究方法：対照群
（ナイロン袋1枚使用、ほうじ茶ゲルなし）

ふき取ったティッシュ、手袋を同じナイロン袋に入れます。ここまでの間便はずっと空気にさらされている状態です。最後にナイロン袋の口をしばります。ほうじ茶ゲルは使用しません。

研究方法：実験群
（ナイロン袋2枚使用、ほうじ茶ゲル注入）

便が空気に晒される時間を短縮する

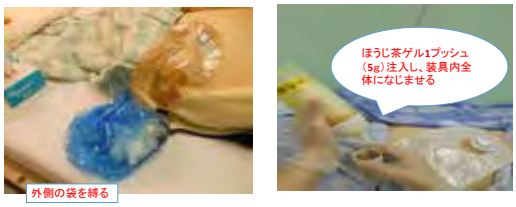
実験群です。便処理時にナイロン袋を２枚準備し、２重にします。内側の袋に便のみを捨て、すぐに内側のナイロン袋の口をしばります。そうすることで便が空気にさらされる時間を短縮しました。

研究方法：実験群
（ナイロン袋2枚使用、ほうじ茶ゲル注入）

便は空気に晒されてない

その後、排出口をティッシュできれいにします。外側の袋にティッシュ・手袋をいれます。

研究方法：実験群
（ナイロン袋2枚使用、ほうじ茶ゲル注入）



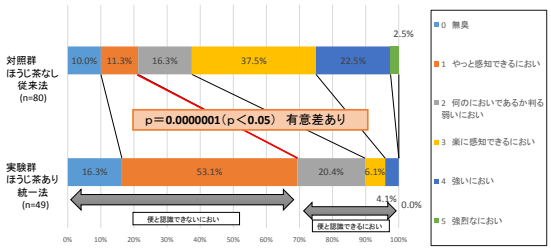
最後に外側の袋の口をしばります。ゲル注入方法です。排出口からほうじ茶ゲルワンプッシュ５gを入れ、装具内全体になじませます。これを装具交換時と便処理毎に行います。

倫理的配慮

本研究は、院内幹部の倫理審査を受け承認を得て実施した。研究対象者に対し、研究目的、方法、プライバシーへの配慮、結果の公表などの他、協力は自由意志であること、同意後も中断できること、また協力が得られなくても不利益は受けないことについて、文書と口頭による説明を行い、同意書に署名をとり実施した。

倫理的配慮はスライドをご参照ください。

対照群と実験群の便処理後の臭気強度の比較



結果、考察です。対照群は３（楽に感知できるにおい）が最も多く37.5%、５（強烈なにおい）が2.5%ありました。実験群は１（やっと感知できるにおい）が53.1％で最も多く、５（強烈なにおい）は０％でした。便と認識できないにおいが対照群では約20%であったのに対し、実験群では約70%となりました。対照群と実験群をマンホイットニー U検定を用い有意水準５％で比較したところ有意差を認めました。臭気評価者は対照群か実験群か知らないことを条件としたことで先入観による評価への影響を排除でき、信頼性のあるデータになったのではないかと考えます。消臭対策は単独では不十分と言われており、今回は２つの方法を併用したことで、消臭効果がより得られ、便処理が療養環境に及ぼす影響を軽減できたと考えます。またコスト的にも業務量としても負担とならない方法であり、今後も継続可能な消臭対策となりました。

結論

本研究では、
1.ほうじ茶ゲルの使用
2.排泄物の空気中への暴露時間を短縮させる
便処理方法の統一

ストーマ便処理時のベッドサイドの臭気レベルが改善することが明らかになった

本研究では、ほうじ茶ゲルの使用と排泄物の空気中への暴露時間を短縮させる便処理方法の統一で、ストーマ便処理時のベッドサイドの臭気レベルが改善することが明らかになりました。

引用・参考文献
1）板倉朋世、他：オムツ交換時における病室内の臭気レベルに関する研究，獨協医科大学看護学部紀要,vol.5,No.1,2011
2）松島みちる：ストーマ保有者に対する消臭対策（シャンピニオンゼリー）の効果,日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌,vol.28,No1,p65,2012
3）遠沢舞子、他：ｺﾛｽﾄﾐｰ患者における瞬間消臭機能を有したストーマ袋カバーの有用性の検討,日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌,vol.28,No1,p64,2012
4）佐々木直美、他：出涸らし乾燥コーヒーによる便臭軽減効果についての検討,日本ストーマリハビリテーション学会誌,17（2）,p22,2001
5）青柳陽美：術後患者の便排出時コーヒー豆かすを用いた消臭効果,日本ストーマリハビリテーション学会誌,18（1）33,2002
6）谷村麻希、他：ストーマ袋の便臭に対する緑茶スプレー噴霧の消臭効果　一般ストーマ用消臭剤との比較,第36回　日本看護学会論文集,看護総合,2005
7）布施智子、他：新実践へのアドバイス　木酢液を用いた消臭援助　ストーマ造設患者に試みて,看護実践の科学22巻12号
8）新野峰子:使用後紙おむつの臭気に対する発行資材の消臭効果の検討,日本看護研究学会雑誌,vol.34 No.1,2011
9）吉田理佳、他：オムツ交換時の便臭に対する重曹散布の消臭効果,東海四県農村医学会雑誌39号p18-20,2013
10)小田桐恵、他：床上排便に対するほうじ茶スプレーの消臭効果,弘前病院紀要,第1巻,3号,2008
11)森田智恵、他：排便臭の緩和を目指して-茶葉消臭剤を作製して,第35回　日本看護学会論文集,看護総合,2004
12)戸川弓枝、他：オムツ排便後の消臭対策の検討～重曹水とほうじ茶を洗浄水に利用して～,函島総合病院医学雑誌16号,p41,2010
13)杉山朋子、他：ほうじ茶葉による消臭効果の検証,第44回　日本看護学会論文集,看護総合,2014
14)環境省環境管理局　臭気指数ガイドライン
15)板倉朋世他：病院内のにおいに対する看護職員の意識に関するアンケート調査：におい・かおり環境学会誌,第37巻,第6号,p.437-448、2006
16）渡辺哲子：室内排泄の悪臭に対する実態調査と対策-室内排泄が患者に及ぼす影響-
第17回日本看護学会集録（看護総合）,p51、1986
17)日本建築学会：AIJES-A2003-2005 室内の臭気に対する対策・維持管理基準・同解説日本建築学会、p10、2005
18)「におい」「かおり」と看護　臨床看護38巻13号

引用文献、参考文献はスライドをご参照ください。

ご清聴ありがとうございました。